

八朔祭

江文神社は年間を通じて多くの祭りやお祝いが行われる場所であり、その中でも最も有名なのは毎年恒例の八朔踊りです。このユニークなお祝いは、京都府から無形民俗文化財に指定されています。

伝統的に地元住民の豊作への祈り表すために行われた儀式であり、祭りは旧暦の8月1日に開催されていましたが、現在は9月1日に開催されています。

祭りは、大原の住民が儀式用の「着物」を着て、五穀豊穡を祈りながら神社に向かうことから祭りがスタートします。神社の建物につながる石の階段の直下の広場に到達すると、彼らは円形になり、大きな太鼓の周りで一連の伝統的なダンスを披露します。

もともとは平安時代の終わり（794-1185）に建設された江文神社は、大原村の守護神ウガノタマタミコトが住み、地域を監視する場所です。

中央の建物は3つの中で最も大きく、食料と農業に関連する古典的な日本神話の神であるウカノミタマに捧げられています。ウガノミタマの神という名前は、「倉庫の米の精神」という意味があります。

江文神社は、伝統的な月日数である30日間のそれぞれの名前に使用される「神」が宿る全国30の神社の1つでもあります。この慣例は平安時代に天台仏教で発展し、江文の神は毎月8日目を表す神です。